

揮発性有機化合物(VOC)の排出規制に対する処理方法として、吸着法(活性炭、ゼオライト等)及び燃焼法(触媒、直接、蓄熱)が採用されています。燃焼法において、有機塩素系排ガスを処理すると、燃焼ガス中に塩化水素が含有します。

本装置はアルカリ水洗浄塔を付設し、これらの有害ガスを洗浄除去します。また、未燃の炭化水素が発生すると、塩化水素と反応し、有害なダイオキシン類が生成される可能性があります。

これを防止するために、炉内を高温(850℃以上)に保持しつつ、十分な滞留時間(2秒以上)を維持できるように設計されています。さらに、900℃以上の燃焼ガスでも0.1秒以内に、100℃以下まで冷却できる

急冷塔を併設し、冷却過程で生成するといわれている有害物質(ダイオキシン類等)の発生を抑制します。



[排気筒側からの全景]

[納入先] ライオンアクゾ(株) 殿

[仕様]

・処理ガス量 : 200 m³/H(N)

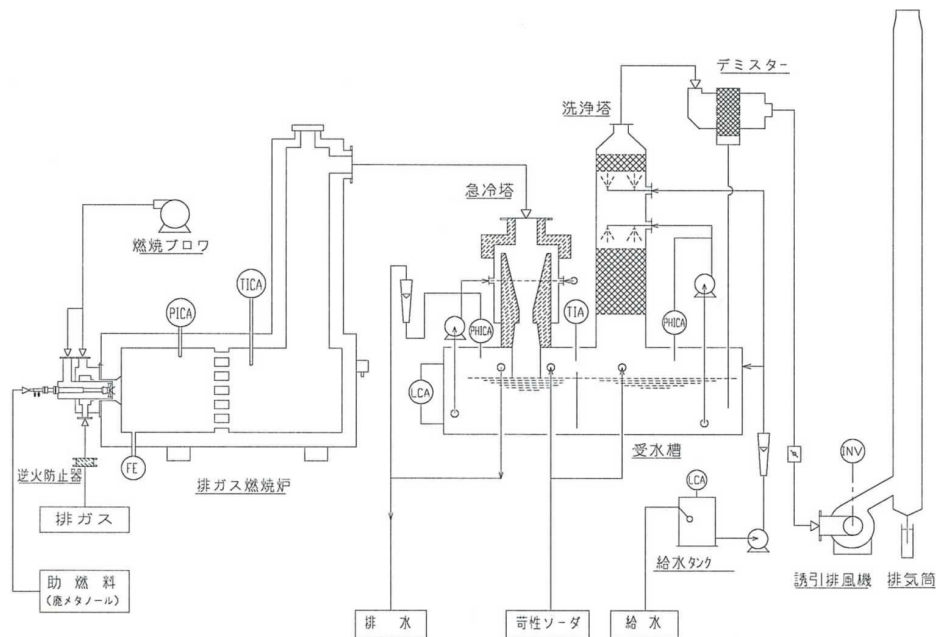
・排ガス主成分 : 塩化メチル

・処理排気中の

塩化水素濃度 : 10 PPM 以下

・電力量 : 設備容量 20 KW

・設置面積 : 5 m × 13 m



1CFX006

[フローシート]